



山梨県議会議員

古屋雅夫

市民と県をつなぐ架け橋

県政だより

(12月定例議会報告)

12月定例県議会で 一般質問に立つ

- 国保制度の改正により県が財政運営の主体としての役割を担う
- ドクターヘリ山間地対策、ゴルフ場を離着陸場として協定を結ぶ

平成29年12月定例県議会報告

さる平成29年12月4日から12月18日まで12月定例県議会が開かれた。

その概要について報告します。後藤知事は開会日の所信表明の冒頭で、総選挙後の第四次安倍内閣に対し活発な論議を通じ我が国が直面している課題に全力を上げ取り組むことを期待することを表明した。提案、報告事項として①条例関係では国の「国民健康保険法」の改正がされ制度の安定を図るため平成30年度から県が責任主体の役割を担うための条例案が可決した、②農林水産業関係では、i) キングサーモンとニジマスの交配に日本で初めて成功し、水産庁から養殖魚として承認を受けた・命名；「富士の介」を本県のブランド魚として東京オリンピック・パラリンピック大会（以下東京五輪、パラ大会）までに、市場流通を目指し生産体制の確立を図っていく、ii) やまなしGAPについては東京五輪、パラ大会の食材調達基準においてもGAPの認証がその要件であることから、生産者が取り組みやすい独自の制度「やまなしGAP認証制度」の認証に向けた取り組みの推進を図っていく、iii) 捕獲したニホンジカのジビエとしての活用のため「やまなしジビエの認証制度」を創設し制度で認証されたジビエが12月中も市場に流通する予定である、③補正予算では東京五輪、パラ大会事前合宿誘致に向けた改修事業として富士北麓公園陸上競技場内の屋内練習走路（130m）等の建設や球技場の芝が張替などに要す費用等14億300万円、及び河川内の支障木伐採や堆積土砂のしゅんせつ、道路舗装修繕、及び県職員等の給与



富士北麓公園内の屋内練習走路(130m)

等の改正など一般会計補正予算は約20億7934万円余など22案件を可決・同意した。議会人事では前・望月勝議長、約6ヶ月の在任をもって辞職願提出。白壁賢一議員（南都留選出）が第126代議長に選出された。

また「古屋まさお」県議は初議会となった本会議において早速、一般質問を行なった。

※GAP：農業生産の工程管理の各段階で点検項目を設定し記録、点検、評価を行い、改善をしていく取り組み。

※記載内容は古屋まさお県議のメモであることから、適切な表現でない部分等についてはご容赦願います。



会派：リベラルやまなし 所属委員会：教育厚生委員会

国民健康保険の改革及び審議内容

《目的》：持続可能な医療保険制度の構築・運営のあり方の見直し

- ◆平成30年度から県も市町村とともに保険者となり、財政運営の責任主体としての役割を担うこととなる。
- ◆新制度においては、県が県全体の医療費を見込み、これを基に各市町村に所得水準や被保険者数に応じて市町村ごとの納付金を算定し、市町村は県に「納付金」を納める仕組みとなります。

なお、「教育厚生委員会」の審査において、納付金の増額となる市町村については、国及び県の公費で調整を行う。期間は平成30年の4月から6年間を予定している。その後については国の動向や市町村の意見を聞きながら検討することを明らかにし、「付帯決議」として、①国に対する財政支援等を積極的に働きかけていくこと、②市町村との協議、連携を十分行い円滑に移行できるよう取り組むことを確認した。

【参考】 H27年度 県全体「国民健康保険」の財政状況（概要）

- 医療費＝約800億円 ● 自己負担＝約130億円
- 保険給付費（国・県・市町村等）＝約670億円
- 内訳 ・ 保険料＝約240億円
- ・ 公費等（国・県・市町村）＝約430億円

古屋まさお県議の一般質問事項

「古屋まさお県議」は本会議（H29.12.12）において次の事項を質した

1. 人口増を目指した子育て世代の移住促進について※
2. 「やまなしGAP」の推進について※
3. 県産ワインのブランド化の推進について※
4. 山梨IoT推進ラボについて
5. 本県への観光客の誘致について
6. JR中央線東山梨駅付近の跨線橋整備について※
7. ドクターヘリのランデブーポイントについて
8. 小学校における外国語教育の導入への取り組みについて※
9. ICTを活用した教育の充実について※

特に※印の質問事項は12月期間、地元の新聞に取り上げられ話題となった。

県民・市民と県政の架け橋

地元・地域の課題等、積極的に県政に反映する

①ドクターヘリの離着陸場（県内414ヶ所が指定されている）その多くは土のグラウンド等で散水対策が必要であることを指摘。当局は中山間地対策の一つとしてゴルフ場を離着陸場として協定化を目指すことを明らかにした、②「東山梨駅付近の跨線橋整備」の課題について、知事答弁において東山梨駅周辺整備（市の事業）と合わせ、県施工での推進を目指すことを初めて明らかにさせた、③小学校に外国語科が導入（2020年度）に合わせた英語教育の結実に向けた教育環境の整備・充実を求めた、④情報通信技術を活かした、あらゆるモノがセンサーや無線通信等を介してインターネットに繋がるIoTの活用。山梨市ではJA山梨とNTT東日本などとともに立ち上げたPJにより農業分野にIoTを活用している。県においても「山梨IoT推進ラボ」（H29・8月国から選定）の体制等、今後の推進に向け各分野の垣根を越えて取り組むことの重要性を提起した、⑤Instagram写真映える山梨市三富「一之釜滝」を例に、県内の観光誘致の取り組みの推進を政策提起をした。



写真映える三富の一之釜滝

※IoTとはInternet of Thingsの略で様々なモノやコトがインターネットで繋がること

県民の目線に立った「議会改革」を目指すことが重要

2017年12月14日山梨日日新聞は「議長」辞職問題を大きく取り上げた「たらい回し」。今期議長は4人目であり、前議長は在任期間が約6ヶ月で辞表提出。驚きと批判する声が議会内でも聞こえた。確かに議員の「出处進退」は自分で決め、自分が責任をもつことは当然である。前望月議長も苦渋の決断であったであろう。しかし県民目線から見ると「たらい回し」と書かれても仕方が無い。「県議会は何をしている」との声も市民から頂きました！

議長の役割の一つは二元代表制に基づく、議会の機能の強化に向けた先導的役割を果たす（議会基本条例4条・議長の責務）と記載されており、短期間での交代は疑問を持つ。「議会がもっと県民に見えるよう」、県民に近くなるための対策など課題は多く、その先導的役割を担うのは議長である。

また、私たち議員もそうした課題に正面から向き合い、取り組んでいかなければならないと強く感じた12月議会であった。

新議長（自民党誠心会）は、「所信表明会」で多くの公約を述べた。

今期も残すとこあと約1年4ヶ月、途中で交代することなく、公約を一つ一つ実現し県民、議会の負託に応えて頂くことを期待する。



古屋まさお 県議会本会議で質問(写真)



H30年1月 出初式 日川小水防隊「大川横結法」



NPO活動 農業体験と食育



保育園児とサツマ芋掘り

古屋まさお in 山梨市



牧丘町牧平地区秋祭り (H29.10)



「巨峰の丘」マラソン大会 (H29年9月)



山梨市七日市場「七日子神社」秋祭り



平成30年1月7日 成人式でお祝いのあいさつ

人街元気!! 「人」「街」「元気」ってな～に?

古屋まさお県議が目指す山梨づくり

県民、地域が元気になり『地域が主役』になるまちづくり!

人口減少対策

地域を元気にする 山梨に住んでもらえる環境づくり
●仕事、子育て、教育など日本一住みよい山梨づくり

健康長寿やまなし

安心安全な暮らしの確保、健康長寿日本一の山梨づくり
●高齢者が活躍できるまちづくり
●住みなれた地域で暮らし続けるまちづくり

社会資本の整備

道路等の整備による地域が明るい展望が開けるまちづくり

地域の課題の解決

●リニア環境未来都市に向けた整備、骨格幹線道路等道路網の整備等
区・自治体等地域が抱えている課題を着実に解決していく



古屋まさおの一言(あとがき)

▶市議選、市長選、県議会・補欠選、衆議院議員選と激動の1年(H29年)が過ぎ新しい年を迎えた。12月議会では後藤県政の「ダイナミックやまなし」について質した、▶山梨市は「信頼回復の元年」、新たな市政運営に期待。市政と県政の「懸け橋」の役割を果たしていきます、▶昨年12月にパンダ「シャンシャン」お披露目。暗いニュースが飛び交う中で愛くるしい動きが人を笑顔にしてくれた。そんな「優しさを感じる」政治を追究していきます。